

昭和女子大短大 瀬沼 頼子

目的 集落の9割を茶農家が占める四日市市水沢町宮妻地区では、住民参加のまちづくり実現に向け模索中であるが、現状の課題として、地域住民の意識と参加を一層高めていく必要性があげられる。日頃関心の低い大人たちや子どもたちにも、我がまちの良さやまちづくりに対する理解と関心を高めてもらおうと、子どもたちに「我がまち」写真を撮らせ、その写真を使ったオリジナルカレンダーを作ることが、まちづくりの一環として検討・実施された。本報告では、初めての試みであるカレンダー作成過程、配布後の地域住民の反応や問題点などを整理し、今後の住民参加型まちづくり上の課題や方向を明らかにする。

方法 1997年8月の1ヶ月を対象期間として、宮妻地区居住の小学生全員に、ポケットカメラを1台ずつ渡し、我が町の自慢できる場所や景色の良い所を写真撮影させた。その写真の中から子どもたち自身に一人5点を選ばせ、同地区の要望により女子大生を対象にカレンダー掲載写真を選定するアンケート調査を同年10月に実施した。

結果 子どもたちが写真撮影を行いはじめた頃から地域住民の関心は高く、完成カレンダーに期待が寄せられた。子どもたち自身も楽しみながら参加することができていた。完成したカレンダーは地区全戸に配布を行い、良い評価を得たと言える。配布後には、次回は地域全体で写真コンテストを開催したらどうかなどの提案が出されるなど、今後のまちづくり展開のきっかけづくりになったと言える。一方、写真選定をした女子大生の農村地の評価は、「緑の美しさ」、「自然が感じられる」、「空気の澄んだ様子」がいずれも半数以上を占め高い結果であった。